

ご両親の手話を目で追っていた愛さんの愛犬  
「ろう文化」を尊重するということ

社会保険労務士 山口由里子

愛さん、いま、私は、左手をグーの形、右手をパーの形で、愛できるように左手の上で回しています。そして、私の表情は笑顔です！

放課後の居酒屋さんで、手話で私と会話をして下さり、ありがとうございました。

自己紹介の順番を待っている間、「どうしよう。手話にしようか。口話にしようか。」と直前まで迷っていたからです。

私の手話はカタコトです。2～3歳児ぐらいの手話力でしょうか。

カタコトの手話を読み取るのは目が疲れ、結構、シンドイものです。チカチカした映像を見続けるのに似ているかもしれません。

「愛さんの目を疲れさせないかな。そもそも、通じるのかな。でも、愛さんの言葉で自己紹介したいな。」

愛さんの言葉で伝えたい。その気持ちだけでも伝わるように、手話で自己紹介することに決めました。

皆さんには、私が「手話のできる人」に映ったかもしれません。もしそうだとしたら、それは愛さんの力だと思っています。

愛さんが、私の伝えようとしていることを、理解しよう、理解しようとする気持ちに伝えて下さったから。とても嬉しかったです。

お腹に魚がいる患者さん。「ろう者同士だから」ではなく、「愛さんだから」心に近づけたのかもしれないと感じました。

そして、相手を理解するための十分なコミュニケーションも取らずに決めつけてしまっている、日頃の自分を反省しました。

OLだった頃、手話パフォーマンスをしている団体のお手伝いをしたことがありました。

パフォーマーの中にデフファミリーの一人息子の方がいらっしゃいました。

「うちの猫、鳴かないよ。デフファミリーだって、わかっているのかもね。」

その方はおっしゃいました。失礼にも私は、鳴いているのが聞こえないのだと思いました。ところが、共通の知人がお宅に遊びに行ったところ、その

猫は本当に鳴かなかったそうです。

愛さんの愛犬も、ご両親の手話を目で追っていましたね。

犬や猫は、人間の文化を尊重してコミュニケーションを取ろうとしてくれるのに、どうして、同じ人間同士の私たちが相手の文化を尊重できないのでしょうか。

そのお宅の話では、もう一つ驚くことがありました。

なんと、トイレのドアがガラス。つまり、トイレの中が丸見えなのです。お宅に遊びに行った共通の知人は女性でしたので、トイレに入っている間、そのお宅のお母様がドアの前に立って目隠しをしてくれたそうです。

私には落ち着いて用を済ませられないと思うトイレも、デフファミリーの皆さんにとっては便利なトイレらしいのです。

たとえば、使用中か一目で分かる、中で家族が倒れていてもすぐ分かる……等々。

「生活様式が違うということ・・・」

愛さんの講義を聴いて、あの時には気がつけなかったけど、「ろう文化」を尊重したお宅だったのだと思いました。

今回の講義を受けて、仕事を理由に行かなくなってしまった手話サークルに再チャレンジしよう、手話で労働相談ができるようになりたい、と思いました。

愛さん、心に響く講義をありがとうございました。